

息子と初対面 幸せ暗転

中国から復員後逮捕

二歳前後の男の子を抱っこする幸せそうな母親。終戦後に中国から復員して間もない桑島さんが撮ったとみられる一枚のスナップ写真は、わが子の成長を喜ぶ家族の様子を伝える。しかし桑島さんは戦犯容疑で逮捕され、一家は暗転した。



桑島恕一さんが1946年春ごろに撮影したとみられる妻節子さんと長男の写真＝遺族提供

写真の女性は桑島さんの

妻の節子さんで、男の子は長男。二人は一九四二年に結婚し、節子さんは四四年十一月、桑島さんの実家の山形県長井市で長男を出産した。中国で終戦を迎えた桑島さんは四五年十二月末に復員し、一歳数月のわが子と初めて対面した。

桑島さんの逮捕後、桑島家や旧制中学の同級生らはGHQのマッカーサー最高司令官宛ての「減刑嘆願」の署名集めを行った。だが、四六年九月に桑島家に届いた知らせは「デス・バイ・ハンギング(絞首刑)」の判決だった。

刑執行から半年後の四七年八月には、追い打ちをかけるように、長男が病気でこの世を去った。節子さんは桑島家と縁を切り、東京の実家に戻って再婚。一男一女に恵まれ、二〇〇六年に八十三歳で死去し

た。

桑島家の遺族の桑島敬子さん(六四)は「義父(恕一さんの弟)の話では、恕一さんは逮捕前に逃げれば助かったのに、『何も悪いことはしてない。身の潔白を証明する』と出て行った。誰かが身代わりにならないければいけなかったのでしょうか」と無念そうに語る。

節子さんの長男(六三)は匿名を条件に、「母は恕一さんのことをほとんど話さなかったが、奉天で新婚生活を送った時が一番平穏だったと懐かしんでいた」と重い口を開いた。

学生時代に初めて桑島家の墓参りに連れて行ってもらったといい、「母は『本当はね、こんな感じの家族と(あなたの)お兄ちゃんがいたのよ』と話してくれた。母なりに一つの区切りをつけたのでしょ」と振り返った。